PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

BEST AVAILABLE COPY (11) Publication number: 03-140486 (43) Date of publication of application: 14.06,1991 (51)Int.CI. C23G 5/032 B23K 1/00 C11D 7/50 C11D 10/02 H05K 3/26 (C11D 10/02 C11D 7:50 C11D 1:66 (21)Application number: 01-279187 (71)Applicant: KAO CORP (22)Date of filing: 26.10.1989 (72)Inventor: FUJIKURA YOSHIAKI

KASHIHARA EIJI KITAZAWA KOZO

(54) DETERGENT COMPOSITION

(57)Abstract:

PURPOSE: To produce the detergent composition excellent in cleansability and safety and appropriate in removing stains from precision parts, etc., by incorporating a specified amt. of benzyl alcohol or 2-phenylethyl alcohol into the composition.

CONSTITUTION: A detergent composition contg. ≥70wt.% benzyl alcohol or 2-phenylethyl alcohol and 0.01-30wt.% surfactant, as required, is prepared. A nonionic surfactant of HLB 4-50 is preferably used as the surfactant, and polyoxyalkylene alkyl ether, etc., are used. Consequently, a detergent composition excellent in cleansability and safety and free of environmental pollution is obtained, and appropriately used in removing stains from precision parts or the jigs for assembling the parts.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C): 1998,2003 Japan Patent Office

19日本国特許庁(JP)

① 特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A) 平3-140486

⑤Int. Cl. 5 C 23 G 5/032 B 23 K 1/00 C 11 D 7/50	識別記号 Y	庁内整理番号 8722-4K 6919-4E 8827-4H	❸公開	平成3年(1991)6月14日
10/02 H 05 K 3/26 //(C 11 D 10/02 7:50 1:66)		6736—5E		

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全5頁)

🛂発明の名称 洗浄剤組成物

②特 願 平1-279187

②出 願 平1(1989)10月26日

⑩発明者 藤倉

芳 明

栃木県宇都宮市山本町271-6 和歌山県和歌山市西浜902-3

②発明者型系明者北澤

栄 二 宏 造

和歌山県和歌山市新在家113-14

切出 願 人 花 王 株 式 会 社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

四代 理 人 弁理士 有賀 三幸 外2名

明

4

1. 発明の名称

洗净剂組成物

- 2. 特許請求の範囲
 - ベンジルアルコール又は2-フェニルエチルアルコールを70重量%以上含有する洗浄剤組成物。

却

- 更に界面活性剤を0.01~30重量%含有する請求項1記載の洗浄剤組成物。
- 3. 界面活性剤がHLB4~15の非イオン性 界面活性剤である請求項2記収の洗浄剤組成物。
- 4. 精密部品又はその組立加工工程に使用される治工具類の洗浄に用いるものである請求項 1 記載の洗浄剤組成物。
- 3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は洗浄剤組成物、更に詳しくは精密部品 又はその組立加工工程に使用される治工具類の固 体表面に存在する、油脂、機械油、切削油、グリ ース、ロジン系フラックス等の汚れの除去性に優れ、また斯かる汚れにより劣化されにくく、かつ 魔水処理性のよい洗浄剤組成物に関する。

[従来の技術]

また、近年、環境汚染が少なくかつ安全性の高い洗浄剤として、米国特許第4.511.488号明細書、同第4.640.719号明細書、同第4.740.247号明細書等に見られるようなリモネン、ピネン、ジベンテン等のテルベン類も提案されている。

[発明が解決しようとする課題]

しかし、これらの洗浄剤はいずれを取っても、 汚れ除去性、低毒性、環境汚染をしないといった 洗浄剤組成物に要求される条件のすべてを満たす ようなものではなかった。すなわち、塩素系及び フロン系の溶剤を用いる洗浄剤は、安全性、毒性、 環境汚染性等に大きな問題を有している。また、 炭化水素系溶剤、特にペンゼン、キシレン等は毒 性が高く、労働安全衛生法上の有害物に指定され ている化合物であって、これを取り扱う作業の危 険性及び煩雑さを考慮すると、洗浄剤として用い ることは好ましくない。一方、水系洗浄剤は、溶 剤系洗浄剤に比較して危険性と毒性が低い点では 好ましいが、洗浄力において数段劣っている。ま た、リモネンに代表されるテルペン類は、安全性 と洗浄性を両立させ得る化合物であるが、引火点 が低いため設備が大がかりとなるという問題があ るばかりでなく、天然物由来のために安定品質の 物が得難く、供給量に限界があり、工業用洗浄剤 として実際的ではない。

以上含有することが必要である。

本発明の洗浄剤組成物は、更に界面活性剤を配合することにより、より強力な洗浄力を発揮する。

界面活性剤としてはアニオン性活性剤、カチオ ン性活性剤、両イオン性活性剤等いずれも使用す ることができるが、洗浄面への影響が少ないとい う点で非イオン系界面活性剤が最もよい。例えば ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、ポリオ キシアルキレンアルキルフェノールエーテル、ポ リオキシアルキレンアルキル脂肪酸エステル、ポ りォキシアルキレンアリルフェノールエーテル、 ポリオキシアルキレンソルピタン脂肪酸エステル、 ポリオキシアルキレンアルキルアミン、ソルビタ ン脂肪酸エステル、ポリオキシアルキレン等が好 ましく、そのなかでも平均HLB4~15の非イ オン性界面活性剤が特に優れた効果を発現する。 ここで、ポリオキシアルキレンとは、エチレンオ キサイド、プロピレンオキサイド又はブチレンオ キサイドの重合体のことをいう。

界面活性剤の添加量としては0.01~3 0 重量%

本発明の目的は、上述のような従来記述のもつ欠点を改良し、洗浄性、安全性に優れかつ洗浄剤による環境汚染のない、精密部品又はその組立加工工程に用いられる治工具類の固体表面に存在する油脂、機械油、切削油、グリース、ロジン系力を設けるための洗浄剤組成物を提供することにある。

(課題を解決するための手段)

かかる実情において、本発明者らは上記問題点を解決すべく鋭意研究を行った結果、ベンジルアルコール又は2 ーフェニルエチルアルコールが前記条件を満足する洗浄剤組成物として使用し得るものであることを見いだし、本発明を完成するに至った。

すなわち本発明は、ベンジルアルコール又は 2 ーフェニルエチルアルコールを 7 0 重量%以上含有する洗浄剤組成物を提供するものである。

これらベンジルアルコール又は2 ーフェニルエチルアルコールは、洗浄性を維持し、持続性を確保するために本発明洗浄剤組成物中に7 0 重量%

程度、特に3~20重量%が望ましい。0.01重量 %未満では界面活性剤を加えたことによる特別の 効果は発現せず、一方30重量%を超えると界面 活性剤が洗浄表面に残留して、洗浄された部品の 特性に影響を及ぼすことがある。

また、本発明洗浄剤組成物には、その効果を損なわない範囲で、必要に応じて更にエタノール、 グリコール等の各種アルコール、クェン酸、酒石 酸、フタル酸等の有機酸などを配合してもよい。

本発明の洗浄剤は、精密部品及びその組立加工 工程に使用される治工具類の洗浄に特に優れた効 思を有する。

本発明において、精密部品とは、例えば電子部品、電機部品、特密機械部品、樹脂加工部品、光学部品をないう。ここで、電子部品とは、例えば電算機及びその周辺微器、家電機器、通信機器、フリント配線基板;ICリードフレーム、抵抗器、コンデンサー、リレー等接点部材に用いられるフーブ材;OA機器、時計、電算機器、玩具、家電

/ 再生部品、その関連部品等に用いられる磁気記 録部品:シリコンやセラミックスのウェハ等の半 導体材料:水晶振動子等の電歪用部品: CD、 PD、彼写機器、光記録機器等に用いられる光電 変換部品などをいう。電機部品とは例えばブラシ、 ロータ、ステータ、ハウジング等の電動機部品; 販売機や各種機器に用いられる発券用部品;販売 機、キャッシュディスペンサ等に用いられる貨幣 検査用部品などをいう。精密機械部品とは、例え ば精密駆動機器、ビデオレコーダー等に用いられ るペアリング: 超硬チップ等の加工用部品などを いう。樹脂加工部品とは、例えばカメラ、自動車 等に用いられる精密樹脂加工部品などをいう。更 に、光学部品としては、カメラ、眼鏡、光学機器 **等に用いられるレンズがあり、また、その他部品** としてメガネフレーム、時針ケース、時計ペルト

機器等に用いられる液晶表示器;映像・音声記録

本発明において、組立加工工程に使用される治 工具類とは、上述の各種部品例で示したような精

法、揺動法、スプレー法、蒸気洗浄法、手拭法、 水置換乾燥法等の各種の洗浄方法において使用で き、かつ好ましい結果を得ることができる。

本発明の洗浄剤を、例えばフラックスの付着したプリント配線基板の洗浄工程に用いる場合、例えば、まず本発明洗浄剤組成物をいれた超音強洗浄情で超音波洗浄し、次いで本発明の洗浄剤組成物により蒸気洗浄する最後に本発明の洗浄剤組成物により、効率的に洗浄するとができる。

(実施例)

等が例示される。

以下、実施例を挙げて更に詳細に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。 実施例1~16及び比較例1~2

表」に示す組成の洗浄剤組成物を調製し、その 洗浄性及びフラックス除去性を評価した。結果を 表1に示す。

(1) 冼净性試験

? 0 mm× 1 5 0 mmの鋼製テストピースに

密部品を製造、成形、加工、組立、仕上げ等の各種工程において取り扱う治具、工具の他、これらの精密部品を取り扱う各種機器、その部品等をいう。

本発明の洗浄剤組成物は、特に上述のうち、フラックスの残存したブリント配線基板に対し好適な性能を発揮するが、本発明の対象となる精密部品類及び治工具類は、これらの例に限られるものではなく、組立加工工程において各種の加工品のやではなく、組立加工工程において各種の加工品のや性を低下させる各種の油性汚染物質を付着している一定形状の固体表面を持つ精密部品類及び治工具類であれば、本発明洗浄剤組成物が適用できる。

これらの汚染物質が例えば油脂、機械油、切削油、グリース、ロジン系フラックス等の、主として有機油分の汚れである場合、本発明の洗浄剤組成物が特に有効であり、これに金属粉、無機物粉、水分等が混入した汚れであっても充分洗浄除去することができる。

本発明の洗浄剤組成物は、浸漬法、超音波洗浄

5 0 0 mg/mの割合でナフテン系鉱油 (4 0 ℃, 3 5 0 cst) を塗布する。このテストピースを、4 0 ℃に保った洗浄液に浸液し、超音波で 5 分間洗浄した。洗浄後、目視によりその洗浄性を評価した。

(評価基準)

洗浄性 ◎:表面癌めて清浄

〇:表面に鉱油残着ほとんどなし

△:表面に鉱油残着わずかにあり

×:表面に鉱油残脊あり

(2) フラックス除去性試験

I C チップを装着したプリント配線板をフラックス処理し、続いてハンダ処理してテストピースを80 でに保った洗浄液に浸漬し、5分間超音波洗浄後プリント配線板からのフラックスの除去性を目視で評価した。

(評価基準)

◎:フラックス残着なく、洗浄力極めて大

〇:フラックス残容がほとんどなく、洗浄力

大

Δ:フラックス残磨がわずかにあるが、洗浄

カあり

×:フラックスが残着し、洗浄力に乏しい

以下汆白

表 1

	洗净剂粗成物	L						実		箱	Ø							此	铰例
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1 2	13	14	15	16	ı	2
基	ベンジルアルコール	100		90	90	90	80	95	99	75									
#	2ーフェニルエチルアルコール		100						Ť		9 0	9 0	90	80	95	99	75		
-	リモネン																	100	
荊	チロシン																		100
	POD ノニルフェノールエーテルHLB=8			10							10			<u> </u>					
	(POD) ドデシルエーテルHLB=10.5				10							10							
界面	(POB) ソルピタンオレエートHLB=12					10							10	 					_
面活性	POD ラウリルアミンHLB=12						20							20					
荊	POD ラウリルアミンHLB=10							5	1						- 5	1			
	(POP) (POE) プチルエーテルHLB=5							-		2 5							2 5		
評	洗净性	0	0	0	0	0	•	0	0	0	6		0	0	0	0	6	0	0
価	フラックス除法性	Δ~0	۵~٥	0	0	0	0-0	0	0	0~0	0	Ö	0	0~0		0) {	<u> </u>

FOB:ポリオキシエチレン

POP:ポリオキシブロピレン

実施例17、18及び比較例3

表 2 に示す組成の洗浄剤組成物を調製し、その引火性、生分解性及び水による洗浄性 (水に対する溶解性) を評価した。その結果を表 2 に示す。

(1) 引火性

クリーブランドオープンカップ (Cleaveland Open Cup) 法により引火性の強弱を評価した。 (評価基準)

〇 引火点100セ以上

△ 引火点50℃以上100℃未溢

× 引火点50℃未満

(2) 生分解性

沈降棺を備えた吸気式連続活性汚泥処理試験 装置を用いて、各洗浄剤の生物処理性(生分解 性)を測定した。活性汚泥は、花王和歌山工場 活性汚泥を用い、汚泥濃度3000g/ℓ、処理温 度25℃、水理学的滞留時間12hrで処理を行った。なお、フィードする洗浄剤濃度は300 g/ℓとし、これにJIS K0102の16(1)で定め られた無機栄養塩溶液A、B、C、D液各1 ml ✓ ℓを加えた容液をフィード液とした。 迎視フィードしながら処理を行い、 7日後の処理液を採取して、残留するペンジルアルコール、 2 ーフェニルエチルアルコール、 リモネンの残留量をガスクロマトグラフィーを用いて側定した。 同時にフィード液中の各成分もガスクロマトグラフィーで測定し、分解率は以下の式で算出した。

分解率(%) = 処理液中の被検成分残留量 フィード液中の被検成分譲度

得られた分解率より、下記基準にて生分解性を 評価した。

分解率90%以上

0

分解率80%以上

0

分解率 6 0 %以下

×

(3) 水による洗浄性

水に対する容解性をもって、水による洗浄性を 評価した。

洗 净 剂 成 分 (重量%)	引 火 性 (引火点, で)	生分解性	生分解性 水による洗浄性
ペンジルアルコール (90)	11 6 17	(į
(POE) ドデシルエーテル(10)	0 1 6 4))	建
2ーフェニルエチルブルコール(90)		(
(POE) ドデシルエーテル(10)	(S))	(董 健 ()
リモネン (100)	× (47)	×	(姓) ×

~

衷

表2の結果より、本発明洗浄剤組成物は次のような利点を有する。

(発明の効果)

以上のように、本発明によれば洗浄性、安全性に優れ、かつ洗浄剤による環境汚染のない、精密部品又はその組立加工工程に用いられる治工具類用の洗浄剤組成物が提供される。

以 上